

学科・専攻 家政学専攻	所感
氏名 山田 陽平	全体的に振り返ってみることで、自分が信念としていることを言語化することができた。 教育活動を整理することができ、課題を明確にすることができた。改善していきたい。

家政学部家政学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ 家政学専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養士専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができると期待される人材を育成することである。

1 教育の責任

私は家政学部において主に「児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に関する科目、「生徒指導の理論及び方法」に関する科目を担当している。本学では管理栄養士専攻では栄養教諭、家政学専攻では家庭科教諭の免許が取得できる。教育の目的は「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」である（教育基本法第一条）。育成される児童生徒の発達的特徴のような心理面の理解なくして教育の目的を達成することはできない。そのため、学生には児童生徒の心理面に関する基本的な知識を習得させる。加えて、知識に基づいて学習指導と生徒指導ができる実践力を育成する必要がある。

2020年度に担当した科目は以下の表のとおりである。他にも、教職課程委員、教員採用試験の対策指導、オープンキャンパス企画を担当している。

●2020年度まで一人で担当している科目				
科目名	対象学年	種別・特徴・期間	開講年度・学期	受講者数
教育心理学	1	選択・教職・半期	2016～2019・後期	30
生徒指導論	2	選択・教職・半期	2016～2019・後期	20
卒業研究	4	必修・専門・通年	2016～2019・通年	1～5
●2020年度まで複数名で担当している科目				
科目名	対象学年	種別・特徴・期間	開講年度・学期	受講者数
生活学基礎講座	1	選択・専門・半期	2016～2019・前期	30～40
ライフスタイル学演習Ⅱ	1	必修・専門・半期	2020・後期	30～40
教職総合演習B	3～4	選択・教職・半期	2016～2019・前期	10～15
教育実習指導	4	選択・教職・半期	2016～2019・前期	10～15
生活スタジオⅠ	3	選択・専門・半期	2016～2019・前期	30～40
教職実践演習	4	選択・教職・半期	2016～2019・後期	10～15
生活スタジオ入門	2	選択・専門・半期	2016～2019・後期	30～40
生活スタジオⅡ	3	選択・専門・半期	2016～2019・後期	30～40
介護等体験実習	2～3	選択・教職・半期	2016～2019・後期	20～30

2 教育の理念と目的

私が主に担当している教職課程の学生の3割程度は教師になることを目指している。比較的眞面目であり、与えられた課題は無難にこなすが、自学自習をしない（やり方がわからない）ことや、読書や新聞を読まないために教養が不足していると感じる。教職課程を通して教育に関する知識や技術を身につけるとともに、自分自身を成長させる方法を知り、実践することを経験してほしい。そこで、私は次の4点を意識して教育を行う。

学生が大学で学ぶことは、①自分の磨き方を知ること、②知の最前線を知ること、③学問的思考方法（特に論理性、いや実証性とか引用ルールとかもいるな）を身につけること、④余分なことを大量に経験することであると考えている。

- ① 自分の磨き方を知るとは、どのようにすれば自分自身を成長させられるかを考えて実践することをサイクル化することである。自己調整学習やメタ認知の育成を意味する。
- ② 学問は知見がアップデートされ続けるものである。教科書のベーシックな知識だけでなく、新しい発見やアップデートを教員が提供できる場が大学教育の本質であると考えている。
- ③ 問いを見つけて解を出す方法は自由なのではない。例えば心理学では、過去の文献を調べて論理的に仮説を立て、実験や観察などでデータを収集し結論を導く。批判は直感ではなく実証や論理に基づいて行うことが求められる。この方法論を実習を通して身につけてもらう必要がある。
- ④ 専門性を深めることに加えて、それ以外のことを経験しておくことが重要と考える。ボランティアでも、趣味の映画や音楽鑑賞、旅行や読書など何でもよいと思う。大量に情報をインプットしておくことが、専門知における創造的アイデアや批判的思考になりうる。教養として他者との会話の基礎にもなる。

また自分に求めることとしては以下の4点である。

- 毎年同じ授業内容を繰り返すのではなく、常に改善しようと変化させ、挑戦する。そのためには、新しい文献を読み、学会や研修会に参加して自分自身をアップデートさせる。
- 学生の様子や課題の回答内容を観察して、課題のゴールやスケジュールプランを柔軟に変更して、より深く学べるように工夫する。
- 答えをすぐに言わないようにする。学生には自分で試行錯誤して考えをアウトプットさせる。
- 新しいICTツールを積極的に使い、使用方法や使いやすさを勉強する。

3 教育方法

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の習得のために、教科書を丁寧に読んで理解することを重視している。そのために、予習では章の要約、不明な語句を調べる、意味を理解できない記述を抽出するようにしている。授業ではポイントを解説し、図表等のデータの読み取りや理論的な解釈を説明するようにしている。図表データの読み取りは試験も行い、意識して教科書を読むように促すとともに、理解不足を認識させるようにしている。 ・レポートやプレゼンテーションの資料作成では正しい情報源（書籍や官公省庁などの公的資料）を必ず利用することを課している。 ・読書や新聞から情報を得るように促すために、レポートでは2冊以上の書籍、1年以内の新聞記事の引用を必須としている。教育に関わる新聞記事を3週間連続して集め、複数名で持ち寄ってまとめさせ、教育時事の把握を行わせている。 ・課題の提出は1度では終わらないことを明示し、基準に到達するまで改善させる。そのためにフィードバックを適切に行う。最終的な目標は、学生自身で推敲を重ねて1度目の提出の段階でレベルの高い成果物をアウトプットできるようにしたい。改善の視点としては、教育的課題について人ごとや上から目線（文部科学大臣のような「教師は・・・すべきである」）の解釈をするのではなく、自分の経験や日常と関係づけた自分ごととして、実際のありうる問題として考え、アウトプットするよう指導している。また、授業中のグループワークを通して、他者の意見や世間・ニュースを積極的に取り入れ、多面的・多角的に思考し、自分の意見と対比させてアウトプットできるような環境を意図的に作っている。 ・ICT ツール（ハード：ipad, スマートフォン, アプリ：google classroom, slack, evernote）を積極的に取り入れ、強制的に利用させて、学生が教師になった将来の現場で使える下地を作っている。
<h4>4 授業改善の活動</h4>
<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の授業から、次回の学習範囲に対する正誤テストを取り入れた。次回の範囲のため未学習ではあるが、事前にポイントについて考えておくことで、教科書を目的なく読むのではなく、正解を探しながら読むように促した。合わせて、要約を作成させ、予習活動を充実させるようにした。 ・2018年度から google classroom を使用している。それにより、学生の課題提出および管理、質問への対応や連絡、配付資料や授業動画を簡単に利用することができている。
<h4>5 学生の授業評価</h4>
<p>学生による授業評価はアンケート結果のとおりである。Q3やQ4の平均値4を超えており学生の様子を見ていることが評価されている。Q5 社会人基礎力を活用できる授業を展開しているとしても評価されている。Q15 授業で知識・技術が向上しているかは科目によって3.3-4.5と幅が大きい。また、生活と文化講座の聴講者によるアンケートの結果はわかりやすく、興味深い内容であったと大変好評であった。</p>
<h4>6 学生の学修成果</h4>
<p>学生の学修成果物としては、授業ノート、レポート、データ読み取りテストがある。書籍などの文献資料を読み込み、自分ごとの問題として捉えられるようになっている。2019年度の教員採用試験は合格者3名であり、愛知県中学1名、愛知県高校1名、岐阜県高校1名が内訳である。また私学適性検査を受検した3名の結果は、教職教養と専門科目ともにAAが2名、BAが1名であった。加えて、1名が大阪教育大学特別支援教育特別専攻科に合格した。</p>
<h4>7 授業科目に関連した教材開発</h4>
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の章内容に合わせた正誤テストを作成し、予習課題として使用している。 ・レポート課題に対して見本を作成し配布している。レポートの本題を明示すること、導入や論の展開、文献や新聞記事を論の流れの中で引用するとはどういうことかを理解させるために作成している。学生にはまず真似をさせることから始めている。
<h4>8 指導力向上のための取り組み</h4>
<ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会に参加し、教育改善の方策のヒントを得ている。 ・教育心理学会や発達心理学会に参加し、教育課題の知識を収集している。 ・学生委員会主催の学生相談勉強会に参加して、学生指導の知識や技術を学んでいる。 ・学校心理士会主催の研修会に参加して、最新の教育問題の知識を得ている。 ・生活と文化講座で講師を行い、市民にもわかりやすい説明を実践している。
<h4>9 今後の目標</h4>
<p>（短期）</p> <p>改善・努力については、シラバスを改善する、授業の流れを学生に明示する、ICTツールの勉強会を開催する、テスト（評価法）によって捉えられる認知をリスト化し学修成果と対応づけていくことを行う。</p> <p>成果・評価については、教員採用試験の合格者を出す、授業アンケートに対応する改善案を考える、論述のパフォーマンスをさらに向上させるために見本の提示と改善を繰り返す。プレゼンテーションのパフォーマンスを上げるために、準備することを学生に明確に示す。基礎が身についたことを示す評価法を考える。実践論文として紀要に投稿する。資格取得を促す（進路アドバイザー、数検）。</p> <p>方法については、データ読み取りの解説例を作る。正しい引用のあり方を例示する。シラバスと対応するようにする。Scrapbox や Slack を活用して授業時間外での学修活動を充実させる（主に卒業研究）。</p>
<h4>10 添付資料</h4>